

夕焼け小焼けの赤とんぼがいい

町長

現在流している

〔西山〕 夕方5時の音楽は、町長の心、教育委員会の心、町民の心であると思う。夕焼け小焼けが一番いいという声が多い。

〔町長〕 大山にちなんだ曲ということで大山賛歌のメロディを使用した。わかりにくいということ

で現在は夕焼け小焼けを流している。



夕焼け小焼けで帰りましょう



西山富三郎 議員

町民の恥 差別発言

町長

残念な気持ちでいっぱい

〔西山〕 町民の部落差別発言があった内容と対応は。何を学んだか。

〔町長〕 平成22年10月15日、午後4時

50分頃、町民から役場業務に対し苦情の電話があった。役場に対する憤慨表現の中で「人間でもない同和地区の者というんか」というものであった。

電話を受けた職員は説得につとめたが、興奮状態で匿名、電話着信履歴非表示のため男性としか分からなかった。職員は課長に報告し協議をした。

10月18日には人権推進課に詳細を文書で報告した。

人権推進課では、内容の精査をし、「大山町人権・同和問題に関する差別事象に対する対応方針」に従い、10月26日「大山町人権・同和問題に関する差別事象対策会議」を開き今後の対応を検討し、その内容を関係機関に報告した。

11月25日には議会全員協議会に報告をし意見を聞いた。

日々人権啓発を推進している者として大変残念な気持ちでいっぱいである。

人権意識は相当高まり、部落差別は見えにくくなっているようだが、同和問題や同和地区に関わりたくないという意識はまだ根強く残っている。

人間関係が良好な時は表面に現れないが、良好な関係が崩れた時に差別意識が態度や行動となって現れる。

今回の差別発言もその典型的な例である。部落差別・人権問題はまだ解決されていないと認識している。

〔西山〕 部落差別には5つの領域があるといわれている。どう認識しているか。

〔町長〕 戦後から近年までの現実認識は、①住民になお広く存

在している偏見・関わりたくないなどの差別意識

問題のみならず、あらゆる人権問題を考える上で大きな意義を持つており、人権文化の町づくりを目指す上でも重要である。

② 住環境や教育、就労など生活の側面に現れる低位な生活実態

〔西山〕 職員の心得カードはできていますか。

③ 差別意識が態度となり現れる差別事件

〔町長〕 職員の行動姿勢・行動規範を定めた私たちの行動基準を平成20年7月に策定している。

④ 差別事件は氷山の一角といわれているが、目に見えない水面下に広がる差別実態

職員一人ひとりに配布し自覚を高めるため朝礼で読み上げ確認している。

⑤ 差別を受ける側の人々の癒しがたい傷となっている「心の現実」と認識している。

この5領域は部落



度開催)